

NEXTビジョン65



はじめに

～ひと・まち・資源・世界がつながる都市高松～

2021年現在、少子高齢化、国際的な競争激化はますます進行し、人々は閉塞感から抜け出せずにいます。それに追い打ちをかけるように、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延や繰り返し発生する自然災害などによって不透明さが増し、将来の予測が困難になってきています。

2016年、JCI高松は創立60周年にあたって10年の長期ビジョンを策定いたしました。40歳までという年齢制限を設け、1年ごとに組織の役職者を変える単年度制を採用している青年会議所において、このビジョンは私たちの運動を継続して展開していくために、また関係する多くの方々に運動に対するご理解とご協力を頂くために策定されています。急激に世界や環境が変化する中で、このビジョンを精査し時代に合った形に進化させる必要があります。

時代の変化は困難だけでなく希望も生み出しています。SDGs（持続可能な開発目標）の概念を取り入れた社会貢献の在り方の変化、また大都市一極集中から地方の良さが見直されるなど、地方都市に住み暮らす市民にとって好機が訪れています。JCI高松は、ひと、まち、資源そして世界がつながり、真の豊かさが溢れる地域社会を生み出すために、未来の責任世代として率先して行動してまいります。

1. 社会貢献するひと

- ・1-1.社会全体での社会貢献意識の向上
- ・1-2.人間力あるリーダーの育成から自ら行動する人財の育成
- ・1-3.豊かな心を持つ人財の育成
- ・1-4.地域社会に新たな価値を生み出す人財の育成

2. 地域から必要とされる 青年経済人の創造

- ・2-1.激しく変化する「必要とされるもの」に対応できる人財の育成
- ・2-2.若い力と青年経済人の力の融合

3. 海・港周辺を起点と して開かれたまちづくり

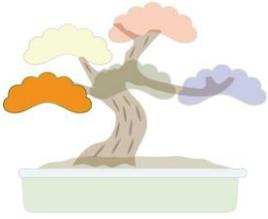
- ・3-1.地域資源を活かしたまちづくり
- ・3-2.高松のファンが増えるまちづくり
- ・3-3.人がつながり共創するまちづくり

4. 世界に直結した 国際交流

- ・4-1.姉妹都市・友好都市とのさらなる交流発展
- ・4-2.ファンの裾野をひろげる高松の創造
- ・4-3.SDGsの達成に向けて地域からの国際協力

5. 世界から認められる 地域の魅力を創造

- ・5-1.地域ブランディングの醸成
- ・5-2.地域の特性や伝統を継承する人財の育成



1.社会貢献するひと

1 - 1.社会全体での社会貢献意識の向上

JCI高松は自ら社会貢献の機会創出に努め、多くの活動を支援し、様々な方と協働してきました。しかし、まだまだ地域に寄与できる機会があります。この5年間で社会貢献活動の在り方は変化しており国連が定めたSDGsにより世界共通の指針ができました。かつてはボランティア活動の主体は個人や非営利団体が多数を占めておりましたが、現在は誰もが目標を明確にすることが可能になり、行政や企業などの営利団体でも意識が変化し社会貢献活動が活発化してきています。JCI高松はボランティア活動などの社会貢献活動経験者の割合を3%引き上げることを目指します。また市民の社会貢献意識の向上を支援して地域との協働の機会を提供してまいります。



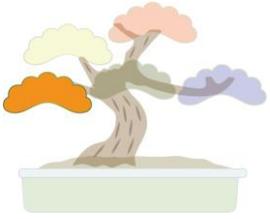
献血バス派遣事業

1 - 2.人間力あるリーダーの育成から自ら行動する人財の育成

この5年間で社会や経済は大きく変化しました。複雑に絡み合い細分化された社会課題が市民に突きつけられています。JCI高松は多くの課題を解決に導く人財の育成に寄与してまいりました。しかし、今後は目標に向かって人を引っ張るリーダーのような人財だけが求められているわけではありません。多くのネットワークを構築しつつ、様々な目標に向けて柔軟に対応し自ら能動的かつ先導的に行動する人財が求められています。JCI高松は人間力大賞やSDGs大賞などを通じて、地域社会の発展に貢献する人財の精力的な活動を支援してまいりました。今後自己研鑽に積極的に取り組み、様々な団体とのネットワークを構築しながら能動的市民の活動を支援してまいります。



高松人間力大賞の開催



1.社会貢献するひと

1-3.豊かな心を持つ人財の育成

IT化やデジタルツールの普及、1クラス35人制の導入など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しています。これらの変化は子どもたちにとっては、つながりが希薄化する要因となっており、またストレスとなり心身の健康を害する恐れがあるともいわれています。今後、子どもたちは道徳心や他者を思いやる心を養う必要があります。JCI高松は小・中学校に対して出前授業である教育実践事業や職業体験授業であるわくわくワークチャレンジなどを展開してきました。引き続き行政、企業、諸団体などと連携して子どもたちに豊かな人間性と社会性を育むことのできる事業を展開してまいります。



教育実践事業

1-4.地域社会に新たな価値を生み出す人財の育成

JCI高松は人口減少による経済縮小からの脱却の起爆剤として、地域を超えた産業の創出するなど経済の活性化について取り組んできました。しかし、その状況も新型コロナウイルス感染症拡大によって一変しました。これまで行っていた経済活動の固定概念から脱却することに迫られています。高松の関係人口を増加させ地域の活性化を促進するためには、地域と世界を結び10年先の未来をデザインすることのできる人財が必要です。JCI高松は地域の協働者や世界とのパートナーシップを深めるとともに地域社会に新たな価値を生み出す人財の育成を行ってまいります。





2.地域から必要とされる 青年経済人の創造

2-1.激しく変化する「必要とされるもの」に対応できる人財の育成

働き方改革によってビジネスの在り方も大きな変化を迫られています。そんな状況下でもSDGsのような新たな取り組みをいち早く企業に取り入れる事例も増えています。ビジネスパーソンは「変化対応業」となっていく必要があります。今後も社会ニーズを捉えて地域に貢献していくためには、変化する価値や環境を見極める必要があります。また持続的に地域に貢献できる人財の育成も必要です。JCI高松は「経営能力の開発」、「人間力の開発」、「社会貢献意識の向上」などを目的としてセミナーやワークショップなどを開催してまいりました。引き続き自己研鑽に励み、社員、顧客、地域に必要とされる人財を育成します。



JCI高松の例会風景

2-2.若い力と青年経済人の力の融合

少子高齢化、新型コロナウイルス感染症拡大などによってこれまで通りの経済活動の継続が困難になっております。しかし、地域の発展のためには豊かな発想が不可欠です。JCI高松は子どもたちや若者のアイデアを生かして地域の課題に取り組む事業を行ってまいりました。2020年には大学生を対象としたチャレンジユニバーシティ事業を実施しました。この事業では「地域の課題解決」×「若者の成長」×「地域の大人との絆」を掛け合わせることで新たな課題解決のきっかけを作ることができました。今後もJCI高松のもつノウハウやつながりを活かすことにより、若者の可能性を引き出し、新しい価値の創造につなげてまいります。



チャレンジユニバーシティ
観光プラン作成の様子



3.海・港周辺を起点として 開かれたまちづくり

3-1.地域資源を活かしたまちづくり

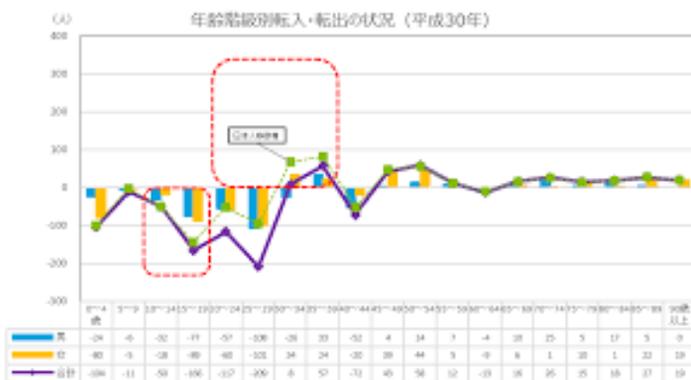
「JCI高松は活力があり愛着を持ってもらえるまちを創造するため、食や伝統工芸品など「目に見える資源」に光を当てる事業を実施してきました。またお遍路やおせたいなどの「目に見えない資源」の発掘にも取り組んでまいりました。近年、新たな地域資源の掘り起こしなどが進んだことで多くの国内外の観光客が高松を訪れるようになりました。その一方で、観光客の価値観に変化が生じ、消費の傾向が「モノ消費」から体験型コンテンツの充実など「コト消費」に移行しつつあります。」JCI高松は、郷土愛の醸成と新たな価値の創出に取り組むためのまちづくり事業を展開します。人々のニーズに合致した地域の新たな資源を発信してまいります。



うどん体験で文化を発信

3-2.高松のファンが増えるまちづくり

働き方の見直しや在宅ワークへの取り組みが進み、ワーケーションなどの重要性がこれまで以上に高まっています。またそれとともに地方都市への関心も増加しつつあります。これらは、若者の県外への人口流出などの課題を抱えていた地方都市にとっての好機です。この好機を最大限生かし、「住み続けたいまち」「何度も訪れたいまち」など「選ばれるまち」へと昇華していく必要があります。そのためには、インフラの整備だけではなく、地域の人々と共に地域の魅力を醸成する必要があります。また、ホスピタリティ精神をさらに育み、市民や若者に選ばれるまちを作る必要があります。今後、多くの方に高松やその暮らしに興味を持っていただき高松のファンになってもらいます。そして、関係人口、観光、移住者を増加させ、地域の活力を高めてまいります。



3-3.人がつながり共創するまちづくり

近年、高松は航路が休航するなど、人口減少やインフラ整備等に伴い高松港のハブ機能が低下しつつあります。一方で、都市機能の再集約や中心部へのインフラの整備など、コンパクトエコシティ構想の推進によって活力あるまちになりつつあります。また、内海で穏やかな瀬戸内海は災害時の要所となるなどの観点でも重要な起点となります。JCI高松は引き続き、地域、行政、団体などと連携しながら海・港を起点としたまちづくりを推進してまいります。





4.世界に直結した国際交流

4-1.姉妹都市・友好都市とのさらなる交流発展

JCI高松には先人たちが築いてこられた姉妹JCI・友好JCIとのつながりという財産があります。この財産は未来に向けて紡いでいくことが大切です。国内外を問わず経済的なものや文化的なものなどの様々なつながりによって交流を深めてまいりました。また2012年にJCI彦根、JCI水戸との防災協定締結するなど、防災の観点からも関係性を構築することができています。それぞれの地域をよくするための連携を行うなど、この交友関係はさらに深める必要があります。JCI高松は対面型やオンライン型を問わず親交を深め相互の交流を続け、さらなる信頼関係を構築してまいります。



海外の青年会議所との交流

4-2.ファンの裾野をひろげる高松の創造



高松はG7香川・高松情報通信大臣会合や瀬戸内国際芸術祭が開催されるなど、国内外から多くの方が高松に訪れました。ビジネス面や観光面の双方でその魅力が発信されてきました。特に、世界最大規模の旅行予約サイトBooking.com（ブッキングドットコム）が発表した「2020年に訪れるべき目的地10選」において国内で唯一選ばれるに至りました。しかし一方で、香川県の魅力度ランキングには大きな上昇は見られませんでした。国内での魅力発信に大きな課題を残しています。JCI高松は今後、行政や諸団体などと連携して国内外に多くの情報発信を行いファンの裾野をひろげてまいります。また地域と継続的なつながりを持つ機会やきっかけづくりを提供する事業を行っていくことで関係人口の増加に取り組んでまいります。

4-3.SDGsの達成に向けて地域からの国際協力

JCI高松は継続的にSDGsの目標に向けて運動・事業を行ってまいりました。SDGsの認知度が高まるにつれ身近な課題をSDGsと関連付けて解決に繋げることができるようになりました。人口減少や少子高齢化など様々な課題に直面している今、社会のあり方を見つめ直し、持続可能であることやあらゆるステークホルダー間のパートナーシップが重視されています。今後、SDGsの達成に向けて地域のコミュニティから世界の地域への変化を生み出す「ローカルSDGs」を実践することが重要です。また、今後ますます世代や地域を超えて持続可能なまちづくりの構想を確立する必要があります。また、環境・社会・経済の3側面の多くのパートナーとともに連携し地域で活動してまいります。





5.世界から認められる地域の魅力を創造

5 - 1.地域ブランディングの醸成

東京一極集中などによる過疎化や少子高齢化などで地方都市の衰退が進んでおります。一方で、地域外の人に興味を持つような魅力発信を行い、ブランディングをしていくことで現状から抜け出すきっかけを創出することができます。JCI高松は様々な会議や事業などを通じて地域資源の魅力を発信してまいりました。今後、地域の特性や魅力を学び、市民や協力者とともに地域のアイデンティティを活かしたブランディングを醸成してまいります。



5 - 2.地域の特性や伝統を継承する人財の育成



地域の伝統文化を発信
たかまつ国際夜市

少子高齢化、機械化、効率化が進み、地域特性や伝統を継承する担い手やその支援者が減少しております。また、それとともに地域の歴史も消滅の危機に瀕しています。地域の特性や伝統を後世に継承していくためには地域に好奇心を持つ人財の育成とその支援が必要です。JCI高松は市民や子どもたちに対してお遍路など地域の歴史や伝統文化を広げる事業を行ってまいりました。引き続き、地域の伝統文化を創ってこられた先人達への感謝を持ち、地域で大切にされている習慣を理解し、伝統を承継する人財の育成を支援してまいります。

結びに

これから5年後、世界はどう変化しているでしょうか。高松で住み暮らす人々は幸せに生きているでしょうか。そして、子どもたちは未来に希望を持っているでしょうか。

世界から認められる
地域の魅力を創造

私たち青年会議所は社会をより良くする事業を通して、自分を成長させていく活動をしています。全ての会員が高松で住み暮らし、働いている40歳までの青年です。会員の一人一人が人生の目標や課題を持ち、少しでも成長したいと思い活動に参加しています。本年、JCI高松が誕生してから65年目の年を迎えました。これまで多くの会員が切磋琢磨し、地域を発展させるリーダーとして成長してきました。それは市民、行政、関係団体、地域の多くの皆様から多くのご理解、ご支援、ご協力を頂くことが出来たからであります。今回のビジョンの策定で分かったこと、それは地域の皆様からこれまで頂いたもの全てに感謝しなくてはならないということ、またこれから更に期待を頂けるような団体にならなくてはならないということでした。

私たちはまだまだ未熟な青年の集まりです。しかし未来に対する責任を全うするために、自分自身をより良く成長させていこうと活動しています。急速に変化する時代、だからこそ全ての人々が幸せに暮らせる未来の姿(ビジョン)を描き、そこに向かうために今から何をし、どう成長しなければならないのか。これからの5年間、JCI高松は常に考え行動を起こし続け、多くの人々が明るく豊かに暮らすことができる「ひと・まち・資源・世界がつながる都市高松」の創造に向けて活動してまいります。

